



国立音楽院 創設者／理事長
新納重臣

国立音楽院創設の理念とまったく新しい教育システムを語る新納重臣氏。好きな音楽を仕事にするという可能性を追求してきた。



世田谷区の三宿にある校舎には、音楽を学ぶための自由な環境が整う。

The Extra Edge

世の中のトレンドをリードする
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

国立音楽院／
Kunitachi Music Academy

「自由・創造・自立」の理念で 好きな音楽を一生の仕事に活かす



日本で初めて指導員の本格的な養成に取り組んだリトミック本科。全国に教室を展開することで、卒業生の就職をサポートしている。

子供の可能性を引き出す 幼児リトミックの第一人者

音楽を学ぶ学校は数あるが、卒業後に音楽関係の就職に結びつくとは限らない。そのような状況の中で、1985年の創設当初から「好きな音楽を一生の仕事に」を理念とする学校が、東京・世田谷の国立音楽院である。1967年に国立市で開講した音楽ホーム教室を前身とする同音楽院は、日本で初めて本格的な幼児リトミック指導員の養成を始めた。現在、リトミック本科など全21の学科・学部を設置している。

幼児リトミックとは、音楽やリズム遊びを通じて子供の心を育むプログラムのこと。同音楽院の創設者であり理事長を務める新納重臣氏が、そのきっかけを語ってくれた。「音楽ホーム教室を始めたるころ、生後4カ月くらいの赤ちゃんが

ピアノの音に反応し、嬉しそうに手足を動かしたのです。それを見たときに、人間の個性や能力が形成される敏感な乳幼児期こそ、音楽リズムを体感させ、心の調和を図ることが大切ではないか」と思ったのだという。そして、考え出されたのが、自由な感性と可能性を引き出す幼児リトミックだったのである。

現在、幼児リトミック教室は全国のカルチャーセンターなどで展開。同時にリトミック本科では、教育や芸術、発達心理学、音楽療法などに基づく独自のカリキュラムで、幼児リトミック指導員を養成。国立音楽院独自の認定資格制度を設け、卒業後の就職をサポートしている。

音楽を福祉に活用することで 新しい仕事の需要を開拓する

国立音楽院では高齢者に対する音楽療法にも早くから取り組み、1995年に音楽療法学科を設置。音楽療法には、音楽を聴いて心身をコントロールする受容的音楽療法と、歌ったり楽器を演奏したり体を動かしたりする活動的音楽療法がある。とりわけ活動的音楽療法は高齢者介護などの福祉の現場で活用され、うつ病や認知症などの病気の改善に役立つという例も報告されている。

そこで新納氏が注目したのは、音楽療法は健康な人の介護予防や健康増進にも役立つという点。「幼児リトミックのノウハウに、高齢者向けの音楽療法を取り入れた若返りリトミックを考案しました。音楽に合わせて楽しく歌い、体を動かす

ことで心身ともに若返らせるのです」と、その狙いを話す。

若返りリトミックは現在、全国90カ所以上の福祉施設に導入され、同音楽院の卒業生たちが音楽療法士や若返りリトミック指導員として活躍する場にもなっている。そして、卒業生が働く場は福祉施設にとどまらず、カルチャーセンターなどにも広がりを見せている。

幅広い学科・学部を設け さまざまな可能性を提示する

好きな音楽を仕事に活かしてもらうために、力を入れていることは多数ある。「ピアノ調律科では調律師の国家資格取得を指導。ギタークラフト・リペア科では、ギター職人(ルシアール)になるための指導が受けられ、ヴァイオリン製作科ではヴァイオリン製作の技術を学ぶことができます」と、新納氏が説明する。

興味深いのは、管楽器を修理する技術



音楽療法学科と並んで人気が高い管楽器リペア科。管楽器の修理を学ぶが、演奏もできるリペアマンを養成することを特徴とする。

士(リペアラー)を養成する管楽器リペア科では、リペア技術と演奏の両方を学べる点だ。新納氏は「スペシャリストとは演奏もできるリペアマンのこと。演奏ができればプレイヤーの心を理解でき、こうした人がリペア技術を学べばスペシャリストになれる」と話を続ける。卒業後の仕事を確保するため、国立音楽院がKMA管楽器リペア工房を立ち上げ、卒業生はここで働くこともできる。

ほかにも音響やレコーディング技術などを学ぶ音響デザイン科など、どの学科も就職先を極力確保している。もちろんプロのミュージシャンを目指す人に対してもプロミュージシャン科など、多彩な音楽ジャンルやスタイルの学科を用意。さらに、希望者には海外留学の道も開かれている。「音楽を一生の仕事にする」という理念で共鳴するイギリスの名門校、トリニティ・ラバン・コンセルヴァトワール・オブ・ミュージック・アンド・ダンスと提携。海を越えて音楽と友情の交流が広がっている。

学びの場では夢のある人たちが集まり、好きな音楽に夢中になれる。こうした環境ゆえ、不登校の中高生も安心して通うことができる。高等部では通信制サポート校との提携により、高校卒業資格の取得も可能。一方、大学生や社会人にも、土曜・日曜のみのクラスがあり、多様な学び方を提案。さらに障がい者も受け入れており、健常者と同じ教室で学ぶインクルーシブクラスを設けている。2017年に開催され

た、障がい者の音楽コンテスト「第14回ゴールドコンサート本戦」では、同クラス卒業生の太田将貴氏がグランプリを獲得。障がい者の活躍の場を広げる一助となっている。こうした取り組みによって、国立音楽院では12〜17歳というさまざまな世代の学院生が集まり、これまでに6700人もの卒業生を輩出してきた。「精神の完全自由」をモットーとした「自由・創造・自立」という理念と、一般の音楽専門学校や音楽大学にはない、学部に関係なく好きな授業を選べる独自の教育システム。あらゆる可能性にチャレンジできる環境によって、「好きな音楽を一生の仕事に」できる、類まれな音楽学校といえるだろう。



プロの演奏家を目指すプロミュージシャン科。ビッグバンドやジャズセッションなど、さまざまなスタイルで即興演奏を学ぶことができる。

国立音楽院の
詳細はこちらへ

